

営農だより 第8号



目標

- ①「米ぬか入り肥料」の施用により、循環型農業の実践
- ② 粒張りが良く、食味値 80 点以上の良食味米

～ 最後の総仕上げは水管理

気を抜かないように!! ～

コシヒカリの出穂も進み、あと 1 か月もしないうちに稲刈りが始まります。今年の梅雨明けは 7 月 20 日でした。7 月中旬はほとんど降雨がありませんでしたが 7 月後半は局地的な降雨がありました。気温・日照時間は例年を大きく上回っておりますが降水量は例年より少なめとなっています。稲は現在多くのほ場で出穂期を迎え、酸素と水を必要としています。また出穂期以降は高温障害の恐れもあり、高温に注意し稲の温度を上げないことが重要です。右に記載した内容と前月号を参考にして、稲体の温度を下げる水管理を行いましょう。ただし水は有限です。地域の皆様と協力して水管理を行いましょう。

8 月の気温は高く、9 月に入ると残暑が落ちつく予報となっています。今後は良食味米に仕上げるため、登熟をいかに向上させるかがポイントとなります。高温障害に気を付けて水管理を徹底し、稲体を最後まで健全に保ち充実した粒に仕上げましょう。出穂期からの積算温度により収穫適期を見極めましょう。

暑い日が続きますので作業をする際は単独での作業を避け、通気性の良い衣類を着用し、水分・塩分補給をこまめに行うなど、熱中症対策を万全にお願いします。どうしても一人で作業しなければならない場合は家族や知人に「どこで、何時間、何の作業を行うか」、また「何時頃帰宅するか」を伝えておきましょう。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目 期間	平均気温 (℃)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4 月 計	13.7	11.5	2.2	161.8	161.3	100.3	328.5	252.6	130.0
5 月 計	17.2	15.9	1.3	201.0	158.6	126.7	264.0	243.7	108.3
6 月 計	19.3	19.2	0.1	93.9	103.0	91.2	459.0	312.5	146.9
7 月前半 計	22.1	22.1	0	55.2	50.0	110.4	117.0	206.2	56.7
7/16～20 日	25.4	23.1	2.3	25.3	19.6	129.1	41.5	49.9	83.2
21～25 日	27.6	23.5	4.1	44.0	21.4	205.6	14.0	44.9	31.2
26～31 日	24.8	24.0	0.8	37.1	28.5	130.2	88.5	46.4	190.7
7 月後半 計	25.9	23.5	2.4	106.4	69.5	153.1	144.0	141.2	102.0
7 月 計	24.0	22.8	1.2	161.6	119.5	135.2	261.0	347.4	75.1



発行令和 8 年 8 月 5 日
北駿産米改良推進協議会
JA ふじ伊豆御殿場営農経済センター
電話：0550-84-4820

【管内水稻生育状況】

(目標茎数 324 本)

7 月 27 日(月)現在

場所	標高 (m)	田植え日	茎数 (本)	茎数/㎡	目標茎数(%)	分げつ数(本)	草丈 (cm)	葉齢	葉色
神山	280	5/6	24.1	426	131.5	7.1	100.0	13.1	4.2
吉久保	370	4/30	19.7	308	95.1	6.0	95.0	13.8	3.7
大堰	400	5/4	22.1	339	104.6	7.1	92.0	13.1	4.2
用沢	460	5/9	19.3	294	90.7	4.9	84.7	13.6	3.3
中畑	550	5/5	24.8	385	118.8	6.9	88.3	13.8	4.4
上柴怒田	610	5/10	26.6	366	113.0	8.3	86.3	13.5	3.8
平均			22.8	353	109.0	6.7	91.1	13.5	3.9
R7 平均			22.7	358.0	110.5	7.0	100.6	14.0	3.8

【水管理方法】

日中

- 足跡に水が溜まる程度に土壌を湿らせる。
- ※溜め水を行うと水温が上がってしまうため行わない。
- 溝切りを行っているほ場では溝のみに水を流す。

夜間

- 気温が下がる夕方以降に用水の冷たい水を入水し、ほ場内の水温・地温を下げる。
- 夜温が下がらない際は溝切りを実施しているほ場でも溝に限らずほ場全体に水を流す。



用水には限りがあります。水が不足する際には日中の入水でも効果はあります。地域の皆様と協力して水管理を行いましょう。

出穂期から 25 日間は落水しない!!

早めに落水してしまうと下葉が枯れて根を傷めたり、等級低下の原因となります。上記の高温障害対策の水管理を継続し、出穂後 25 日間は落水しないようにしましょう。(入水の際は 3 cm 程の水深でも十分です。) その後コンバインが入れる程度に少しずつほ場を乾かしましょう。

落水を早めず間断灌水をしっかり行うことで、稲の枯れ上がりは少なくなり登熟は向上する。

登熟期にかけての水管理

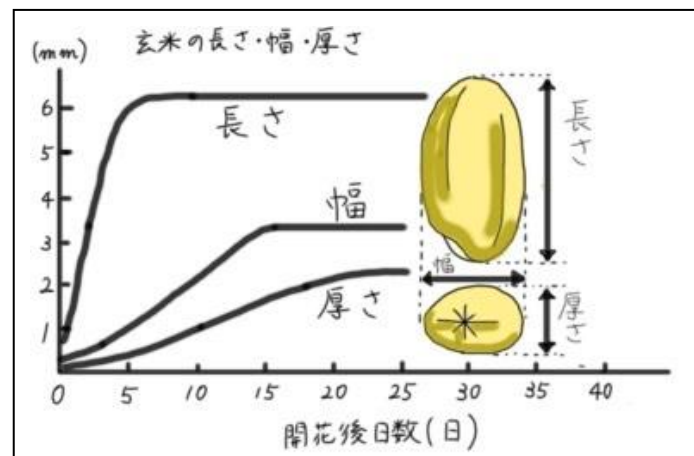
出穂期・登熟期間は水を必要とします。
玄米は初めに長さ、次いで幅、最後に厚みが決定します。

長さ：開花後およそ5日頃

幅：開花後およそ15日頃

厚み：開花後およそ20～25日頃

早期に落水をしてしまうと、厚みのない（粒張りのない）米になってしまうので気を付けましょう。



☆食味にとって適期刈取りは大変重要な要素です。

【刈取適期判定板（籾の色で刈取適期を判定します）】

刈取適期 7～10 日前
（帯緑籾歩合 30%）

刈取適期
（帯緑籾歩合 10%）

左記判定板を参考にしてください。

※調査のポイント

- ①出穂期からの積算温度により、いつ頃が刈取適期かを確認する（1,000℃）
- ②1 株の中位穂の帯緑籾歩合が 10%以下で刈取適期となる
- ③ほ場の5か所以上で調べる

★収穫時期の目安

帯緑籾歩合(%)	収穫までに要する時間
5～10	収穫適期
15	4～5 日
20	6～7 日



赤線内の籾（上・中位1次枝梗籾）は黄化しているが、青線内の2次枝梗籾はまだ緑色。

青線内の2次枝梗籾が黄化した時。

◎試してみましょう！！

「帯緑籾歩合の測定方法」

- ① 平均的な生育をしている株の中位の穂（3～4 本目の穂）で判断する
- ② 中位の穂の全籾数を数える（不稔籾は除く）
- ③ 少しでも緑色が残っている籾（帯緑籾）を数える
- ④ $(\text{帯緑籾} \div \text{全籾数}) \times 100 = \text{帯緑籾歩合}$

帯緑籾歩合が半減するのに5～7日程度かかります。

40% → 20% → 10% → 5%
5～7日 5～7日 5～7日

高温時は半減する期間が短くなり、日照時間が短い時は期間が長くなります。

穂の揃いが悪いほ場では、遅れ穂に合わせると刈遅れ（胴割れ・茶米等）が増加してしまうため、平均的な穂に合わせて刈取りを行いましょう。コシヒカリは遅刈の適応が低い品種です。

☆峰の雪もち刈取適期☆

葉が青くても、籾が9割黄色くなっていれば刈取適期です。

峰の雪もち刈取適期が短く、刈り遅れると着色米・胴割れ米が増加します。胴割れが起こらないよう刈遅れに注意して、穂の黄化90%を見極め適期の刈取りを行いましょう。

また乾燥を行う際は時間をかけてゆっくり2段乾燥を行い、**しっかり「はぜる」**よう心がけてください。 例）2段乾燥：水分を17～18%まで落として一昼夜寝かせる。

その後14～14.5%（はぜる）まで乾燥させる。

～カントリーエレベーター・ライスセンター稼働予定～

カントリーエレベーター 8月31日（月）～9月30日（水）

ライスセンター もち:8月24日（月）～9月10日（木） うるち:9月12日（土）～9月22日（火）

受付時間：カントリーエレベーター・ライスセンター共通 10：00～17：00

※上記は予定です。決定事項は8月20日の部農会回覧にて配布します。

御殿場市の平均積算温度(出穂期からの積算温度)

※御殿場市標高470m 地点

日付	平均気温	出穂期							
		7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
7/23	28.6	28.6							
7/24	27.1	55.7	27.1						
7/25	27.7	83.4	54.8	27.7					
7/26	23.9	107.3	78.7	51.6	23.9				
7/27	22.9	130.2	101.6	74.5	46.8	22.9			
7/28	22.5	152.7	124.1	97.0	69.3	45.4	22.5		
7/29	25.4	178.1	149.5	122.4	94.7	70.8	47.9	25.4	
7/30	26.8	204.9	176.3	149.2	121.5	97.6	74.7	52.2	26.8
7/31	27.0	231.9	203.3	176.2	148.5	124.6	101.7	79.2	53.8

出穂期(出穂5割)からの積算温度1,000度を目安に収穫時期を予想しましょう。

標高によって気温が違います(※標高差100mで±0.5℃修正、1,100度を超えないように)

※コシヒカリも峰の雪もちも積算温度は1,000℃を目安とします。

実際の刈取り適期の判断は右面をご覧ください。

積算温度で収穫時期を予想して準備を行い、収穫適期は籾の帯緑籾歩合で判断しましょう。

（「気象庁 過去のデータ」で検索すると毎日の平均気温が掲示されていますので、ご確認ください。）

【高温障害の発生条件】

出穂期から20日間のうちに平均気温27℃以上、最高気温32℃以上、最低気温23℃以上のいずれかが5日以上続くと、乳白米や胴割れ米による等級低下が危惧されます。ほ場の出穂期を確認し、下記を参考に水管理を徹底してください。

出穂期（ほ場の5割で穂が出た日）から日数を確認します。8月も気温が高くなることが予想されますので、水管理により稲体の温度を下げましょう。